

# 皇太子さまの御結婚

朝日  
1951.7.29

## 御意思、十分に尊重

### まず北白川家の順に選考



皇太子さまの御結婚は、まず北白川家の順に選考される。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

### 宮内廳、内々に準備

皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。



皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

### 名家令嬢に皇太子妃旋風

皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

### 各誌が予想合戦

皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

### あなたへ アドバイス

皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

### 明仁殿下 国民と親しくしようと

皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

### 「候補者」へとんだ悲喜劇

皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。皇太子さまは、今年十八歳の成年に達されるので、皇太子さまの御結婚は、正式の取組である。

週刊誌創刊略年表

(グラフは略)

Table with columns: 発行年月日 (Issue Date), 誌名 (Magazine Name), 備考 (Remarks). Lists various magazines from Meiji and Showa eras, such as '大正' (Taisho) and '昭和' (Showa) sections.



内定した!? 皇太子妃

その人正田美智子さんの素顔

「ニュース・ウィーク」の十一月十日号が、「皇太子妃は皇太子自身の選択によって、ある実業家の娘にきまった」と報じた。これが事実だとすれば、新聞社どうしの申合せによってツンボさじきにおかれていた大部分の国民は、皮肉にも外国の週刊誌から「世紀のニュース」の第一報を受けたこととなる。

テニスコートでの出会い

問題のニュース・ウィークの記事の全文は、皇太子の御婚約の発表から、皇太子と美智子さんの出会い、そして結婚に至るまでの経緯が詳しく述べられている。この中で美智子さんの素顔が明らかになる。

「平井義一（自民党） 皇太子殿下の御結婚につきましてお尋ねいたしますが、新憲法の本意は自由でございますから、皇太子殿下と人間から恋をするだろう、こうおっしゃるでしょう。それもよく分かっておられることだと思います。しかし民族の象徴という観点から見まして、皇太子殿下が皇統系下の御婚約を御承知なさる。あるいは自分の希望をなさるということにせよ、民族が尊敬を崇拝をすると思われたいか、私は決してこの御結婚に反対をするものではございませんけれども、要するに、もしも皇太子殿下、皇室が民族の象徴とするならば、国民の意によって一々いろいろお相手を探したければならぬ。新聞からぜひもらっていただきたいとあなたから進言をされて御結婚なさるならば、これは民族の責である。ほんとうに国民の責でありますから、私は大歓迎でございますが、もしも伝え聞かぬ限り、皇太子殿下が軽井沢のテニス・コートで見せぬ、自分からいこうということをするならば、ここにおられる代議士さんの子供と変りない、私の子供と変りない、これが果して民族の象徴と言われ得るかどうかが私は知りませんが、あなたから進言をされたものが、皇太子殿下が自分で見せぬられたものが、この点をお尋ねしたい。」

「平井佐美宮内府長官 皇太子様の御婚約の実際についてのお尋ねでございます。これは世にいろいろ間違えて伝わっておりますので、ただいま御質問がありましたので、私はこの機会にはっきり申し上げておきたいと思っております。

今回の御婚約につきましては、数年前からいろいろ準備を事務的に進めておりましたのでございますが、もちろんその選考の方針その他につきましては、皇太子殿下御自身は承知なさらず、両陛下のお考えも伺って、われわれとしては慎重にいたしておたわけでございます。殿下御自身の御性格も非常に慎重な方でございます。御自身の義務というようなことにつきましては、はっきりとお考えをお持ちになっている方でございます。今回の御内定になりました方につきましては、世上で一昨年あたりから軽井沢で恋愛が始まったというふうなことが伝えられますが、その事実は全くございません。もちろん軽井沢でテニスを二、三度なさったことは事実でございます。しかしそれ以上の交際があったわけは承知いたしません。この御婚約につきましては、その当時何らその方がわれわれのあれにも入っておりません。しかしいろいろ候補者を選考して参りました過程におきまして、殿下に一つごらんに入れているわけでございます。昨年の春ごろからいろいろ何人かの候補者を選び御相談申し上げ、そのうちからわれわれは御推薦申し上げ、殿下も冷静な観察をなさって御決心になったわけでございます。世上にいろいろいろいろな御態度いろいろのは、私どもは実際において全然お認めすることできません。私ども非常に老成された考え方を持っていて注意深く進められたのでありまして、このことはあの当時の発表後におきましても私どもは外に向って申し上げておりました。世上にいろいろいふように伝わっていることは事実と反していると私は考えます。なかなか先に出来ずとあとから幾ら申しても徹底をいたしませんので、この点は非常に残念でございます。ただいま御質問をいただきましたのは、私どもとしては嬉しいありがたいこととでございます。